

活動成果報告書

平成27年度（第19回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

健康危機管理体制の整備に向けた岡崎市健康推進員活動の育成

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

岡崎市健康推進員育成グループ

代表者：石原 里恵

勤務先：岡崎市役所（岡崎市保健所）

所属：保健部 健康増進課

所在地：〒444-8545

愛知県岡崎市若宮町2丁目1番地1

TEL：0564-23-6639

FAX：0564-23-5071



◇活動方針

初動期の災害時保健活動を的確にかつ速やかに取組むことができるよう、災害時に岡崎市健康推進員が各避難所で地域住民の理解と協力を得ながら健康観察を行い、その結果を要約し、被災情報等とともに保健師担当部局に報告ができるよう育成支援を継続する。

◇活動内容とその成果

1 活動内容

(1) 災害時を想定した健康推進員活動の研修を実施：平成16年度～現在

<目的>健康推進員に期待する役割意識の育成

- ① 講義：「緊急カード所持者への理解と支援」「災害時のメンタルヘルス」
- ② 講演会：「災害時に私が地域でできること」
- ③ 活動報告会：「20年8月末豪雨における岡崎市健康推進員活動について」「地域訓練結果レポート」
- ④ 支所別グループワーク：「地区に対し、自分が今後できること」
- ⑤ 演習：「健康見守りチェック訓練」「要援護者避難経路の確認」「地域防災無線報告訓練」

(2) 岡崎市総合防災訓練、地域防災訓練、医療救護所開設訓練の実践参画を支援：平成15年度～現在

<目的>地域住民に健康推進員の存在を周知し、災害時支援活動メンバーと協働活動ができる

- ① 地区会議に参加：地域の役職者と協働活動ができるようコーディネートし、事前会議等に参加

活動成果報告書

- ② 被災者の健康観察：「災害直後見守り必要性のチェックリスト」による実践訓練
- ③ 避難所被災者健康観察結果報告：「デジタル地域防災無線」を使用した実践訓練
- ④ 巡回健康相談の協力：「心身の健康状態が気になる人」を保健師相談につなぐ実践訓練
- ⑤ 災害時要援護登録者の安否確認活動：避難経路の安全確認実践訓練

(3) 健康推進員地域活動用名刺・名札の作成、活動用多機能ベストの貸与：平成 24 年度～現在

<目的> 災害時の健康推進員の存在と役割について、地域での認知度を高める

- ① 名刺・名札：会議・研修・地区活動時に活用できるよう作成・配布
- ② 活動用多機能ベスト：地区の保健活動、防災訓練時に着用し、存在と活動をアピール

2 活動成果

(1) 研修の成果：平成 20 年 8 月末豪雨災害時に健康推進員の活躍が国の研究者からも評価された

- ① 健康推進員からの健康危機管理情報の提供により、保健活動の初動体制の確立が円滑にできた。

<状況> 午前 8 時：健康推進員 80 人（80%）から地域の被害状況・健康不安情報を入手

→午前 8 時 30 分：保健活動における初動方針を決定し、ア～ウの災害時保健活動を実施

ア 訪問地区の選定：避難所 1 箇所、被害地区健康観察活動 8 地区、要援護者 23 件

イ 災害時要援護者登録安否確認 98 件（精神 65 件、難病 33 件）

ウ 被害地区療養患者病状確認 31 件（結核・小児慢性特定疾患・母子）

- ② 健康推進員の同行協力を得て被災者宅を訪問でき、個々の健康ニーズに合わせた対応に繋がった。

<状況> 午前 8 時 30 分～：浸水被害 9 件に同行訪問

→訪問先から得たア～クの個々の健康ニーズを把握して対応

ア 浸水家屋の清掃をしたいが、乳児をおんぶしたままでは、はかどらない。→臨時保育

イ 停電したため離乳食が作れず、ずっと母乳ばかり与えている。→離乳食の供給

ウ 浸水のため自家用車が故障し、紙おむつ等の買い物に行けない。→紙おむつの配布

エ 慢性疾患の治療薬が水に流されてしまった。→主治医による再処方依頼

オ 床が泥だらけで、乳幼児が這える安全な場所で過ごしたい。→和室のある避難所に移動

カ 床上・床下に消毒薬を散布したいが公所まで取りに行けない。→臨時健康相談所で配布開始

キ 負傷をしたが受診するほどでもなく、処置もしていない。→臨時健康相談所で応急外傷処置

ク 断水のため清潔が保てず、不快。→マスク、歯ブラシ、ウェットティッシュの配布

- ③ 臨時健康相談所で、健康推進員が来談者の浸水恐怖体験を傾聴したことはメンタルケアとなった。

<状況> 3 会場・10 日間・47 人の相談者

→健康相談待ちの時間に、健康推進員が被災者のメンタルケアの重要性を理解した傾聴に努めた結果、被災者が、「死の恐怖体験」「救えなかった命に対する自責の念」「行政への怒り」などの感情も吐露することができた。

活動成果報告書

(2) 実践訓練の成果：活動用ベストを着用して防災訓練に参加したことは認知宣伝効果があった。

① 地域の代表者に「健康推進員の役割」と「誰が健康推進員なのか」が認知された

訓練や企画打合せをとおして、学区総代会長、地域防災連絡員、地域住民等に、「健康推進員」は、被災者の健康観察を行い、保健所に情報提供をする役割があることが認知され、健康推進員地域活動用ベストを着用したことで、訓練に参加した住民に対して「誰が健康推進員なのか」アピールできた。

② 災害時保健活動の初動に有効な情報ルートができた

地域避難所から保健所に、健康観察情報を提供することで、災害時保健活動の初動体制確立に役立つことの理解を広めることができた。

③ 災害発生時に「薬」や「お薬手帳」を持ち出す意識が高まった

健康推進員が、「見守り必要性のチェックリスト」に基づく聞き取り調査で、薬の確認をしたことにより、避難時の「常備薬」や「お薬手帳」を持参する訓練参加者が増えた。

④ 「健康推進員」が認知され、地域の特性に合わせた健康づくりの企画相談や提案が増加した

◇今後の計画

1 特にPRしたいこと

岡崎市健康推進員は、保健活動を補う地域のパートナーとして、平成2年度以降、学区総代会長からの推薦を受け、市長が委嘱して二年の任期を務め再任を妨げない組織である。当初は、女性のがん検診受診率向上を目指した啓発を主眼とした活動を期待し、健康推進員は女性のみで、1小学校区2名という少数選出であったため、その存在感も薄く活動も思うように展開できない地区もあり、平成20年度には、健康推進員廃止論が出され、存続の危機が危ぶまれていた。

しかし、平成20年8月末豪雨時に、健康推進員から得た市内の被災情報を基にして、地域保健活動の初動体制を短時間で確立できたことが、国の健康危機管理部門の研究者らから『災害時に保健活動を支える地域の力である』と評価され、その存在価値が見直されたという経緯がある。

現在は、男性6人・女性88人・計94人の健康推進員が、年3回の研修会に参加し、地域の健康課題を保健師等とともに考える時間を持ち、地域の健康づくり活動に役立つようブロック別の連絡網を作るなど、健康推進員相互の交流と保健事業に関する協力意識が芽生え、主体的な活動が徐々に始まってきた。

2 今後の計画

今後の健康危機管理体制の整備に着目した岡崎市健康推進員活動の育成計画としては、健康推進員からの「地域防災訓練活動報告」を参考に、「被災者の健康観察」や「支援者の健康観察」「保健師に伝えた要配慮者情報」に関する研修を企画することと、地域防災訓練で、地区担当保健師から任期が終了した歴代健康推進員などに声掛けを行って、災害時こそ協力しあい、地域の代表者や住民に健康推進員の活動についての理解を得ながら、公助機能を補足し共助機能を高める重要な地域活動につながるよう支援を継続していくことが重要と考えている。

また、平常時にも地域の特性に合わせた健康推進員活動が、主体的に企画でき実践につながるよう、岡崎市健康推進員育成グループの保健師間で協力し、長期にわたる育成支援に努めていきたい。